

平成19年度 第4回佐渡市行政改革推進委員会

1. 日 時 平成20年2月14日(木) 10:00~17:25

2. 場 所 佐渡市役所 3階 大会議室

3. 出席者 26人

推進委員		佐渡市役所	
会 長	中川英男	総務部長	斉藤英夫
職務代理	金子剛	企画財政部長	荒 芳信
委 員	伊藤稔	市民環境部長	粕谷達男
"	宇留間博	福祉保健部長	末武正義
"	甲斐逸枝	産業観光部長	川島雄一郎
"	平田 緑	建設部長	佐藤一富
"	山本初子	議会事務局長	山田富巳夫
"	山本保孝	教育次長	藤井武雄
		選挙管理委員会事務局長	菊地賢一
		農業委員会事務局長	山本真澄
		消防本部次長	加藤貴一
		事 務 局	
		総務部行政改革課長	藤澤一雄
		総務部行政改革課長補佐	清水忠雄
		総務部行政改革課行政評価係長	加藤留美子
		総務部行政改革課行政評価係主任	笠井貴弘
		総務部行政改革課行政評価係主事	本間正子
		総務部行政改革課行革推進係長	丹下高晴
		総務部行政改革課行革推進係主任	北見太志

4. 会議内容

1 開会

2 会長あいさつ

3 議事

1) 平成19年度改革マニフェストの中間評価について

2) その他

4 今後の日程・連絡事項

5 閉会

会 議 録 (要 約 版)

- 1 開会 (総務部長)
- 2 会長あいさつ
- 3 議事

1) 平成 1 9 年度改革マニフェストの中間評価について

【事務局の説明】

本日のスケジュール及び評価方法等について、説明させていただく。

本日のスケジュールは、事前に配布した資料 4 のとおりで変更ない。よって、本日はこのスケジュールに沿って進めさせていただきたい。

評価は 2) 取組過程を重点に評価をお願いしたい。

また、第 1 回行政改革推進委員会で 1) 計画の妥当性について評価をしていただいたが、今回の中間評価による修正があれば、併せて記載をお願いしたい。

配点基準は、事前に配布させていただいた資料 1 の配点基準をお願いしたい。

記入した評価シートは本日提出いただいてもかまいませんし、一旦持ち帰って記載していただいてもかまいません。但し、中間答申 (案) を作成する際に評価シートの集計が必要となるので、2 月 2 1 日 (木) 頃を目途に事務局まで提出いただきたい。

本日のプレゼンテーションは 1 部局あたりプレゼンテーション 5 分、質疑 1 0 分程度とし、1 部局あたり概ね 1 5 分程度を予定している。

進め方は、3 部局から一括通しでプレゼンテーションを行ってもらい、その後、まとめて質疑とし、残り時間を委員評価としたいと考えている。

【会長】

従来は 1 部局ずつ行っていたが、3 部局から一括通しでプレゼンテーションを行い、その後、一括して質疑を行いたいと思うがいかがか。

【全委員】

はい。

【総務部・教育委員会・福祉保健部のプレゼンテーション】

【総務部長の説明】

(別紙自己検証シートについて説明)

【教育委員会次長の説明】

(別紙自己検証シートについて説明)

【福祉保健部長の説明】

(別紙自己検証シートについて説明)

【委員の質問】

各部局共通で質問させていただきたい。部局長自身が掲げたマニフェストであるが、目標を達成するために自分は何をしたのか教えていただきたい。

【総務部長の回答】

自らでは特にない。しいて言えば時間外勤務関係で 1 8 年 1 1 月策定の行動指針を周知

し取組ませた。また、4時間を越える部署は課長ヒアリングを行った。有料広告の訪問実施。自主防災組織では出前市役所制度を利用して地区へ出向いた。

【委員の質問】

自主防災組織に関連して、助成金請求ありきな地域がある。市としてどう把握し、指導していくのか。

【総務部長の回答】

あらためて0から形を作っていこうとは考えていない。システム作りの手伝い感覚でいる。中越地震を参考にしている。福祉保健部と連携して要援護者台帳の作成を目指している。

【教育次長の回答】

横断的な部分と、奥行きが追求できないところもあるが、世界遺産という面で専門性が高いので、リーダーシップを意識しながら取り組んだ。自らでは特にはない。自己評価としてはCだと思っている。

【福祉保健部の回答】

保育料の滞納整理を実施しようと思ったが、行っていない。今年度の残り期間で少しでも実施したい。

【委員の質問】

公用車326台あるが、リースのウエイトはどの程度あるのか。

【総務部長の回答】

10台前後である。

【委員の質問】

何年位のものか。

【総務部長の回答】

合併前に引き継いだもので、新規ではない。

【委員の質問】

世界遺産関係でメリット、デメリットは何か。また、その対策はどのように考えているのか。

【教育委員会次長の回答】

想像をこえた資産がある。鉱山を中心とする佐渡の影響力を知ったし、市民に知ってもらうことが課題。デメリットではないが、一定の制限、資産の保存。暫定リストである、本登録にはまだ時間がかかる事業である。島民や関係者の理解を深める必要がある。

【委員の質問】

保育料の使用料について、口座振替率はどれくらいなのか。また、前納はできないものか。

【福祉保健部長の回答】

口座振替率は8割程度である。税と異なり、サービス前に徴収することは難しい。

【委員の質問】

3部長ともに評価シートにAがない。まずは総務部長にお聞きしたい。21年度までに行財政改革を進めようとする取組過程の中で、精力的な取組項目がBである。総務部である以上はAの必要があるのではないか。

教育次長にお聞きしたい。日常的なのか、努力してのことかが分からない。もし日常的以外に行ったのであるならばCであるはずがない。それはなぜか。

福祉保健部長にお聞きしたい。自己評価が簡単明瞭で書かれてBになっている。具体的な苦勞がみえない。CにみえるがBとした理由は何か。

【総務部長の回答】

Bの理由は、奥ゆかしさということで理解願いたい。

【教育次長の回答】

個別的にみるとBやCより低いものもある。総合的にみると差し引きでCと評価した。

【福祉保健部の回答】

簡単で申し訳なかった。統合については、職員が一生懸命やってくれているのでAにしたいくらい。全員でやりたいところができなかった部分もあり、大枠での判定である。

【委員の質問】

自主防災組織、評価できる。災害が発生した場合、隣の集落をどうするか、救うかが課題である。今後、特に力を入れて取り組んでもらいたい。

【総務部長の回答】

促していきたいと考えている。自分たちに何ができるかを考えていただいている。具体的な提案も聞いている。出前市役所制度を活用して更に進めていきたい。

【委員の質問】

時間外勤務手当を全てカットは効率的か、会議にも夜間しかできない場合もある。臨機応変に対応するよう指導してほしい。

自主防災組織は大切である。現在の組織率はどれくらいなのか。

【総務部長の回答】

時間外勤務手当は職員の健康管理、施設の維持管理費の削減が考えられることから、まず減らそうが第一である。夜間の会議等は積極的に開催してもらおうし、時間外をつけないばかりではない。予め夜間開催が決まっている場合は振替制度の検討を指示している。

自主防災組織率は12月末日現在で33%であるが、今現在の組織率は集計中である。

【委員の質問】

給与3%削減を聞いたが、民間から見ると手ぬるい。丸が一つ少ない。給与面で今後の削減計画はあるのか。

【総務部長の回答】

給与については、原則、人事院勧告の枠組みを基本としている。基準のラスパイレス指数は、佐渡は90.4%である。しかし、職員数が類似団体と比較して多く、人件費比率が高い。財政計画での人件費は20年度で88億7700万円であるが、20年度は達成できない状況から2年間、一律3%カットする。年間2億円、勸奨退職とあわせて5億円の削減効果額がある。

【委員の意見】

ラスパイレス指数は90.4%かもしれないが、民間と比較もしてほしい。

【委員の質問】

公共施設一覧表が公表されているが、公表結果が活かされていない状況である。周知方法がまだまだ足りないのではないか。

教育委員会は、給食センターに関連して冷凍食品及び地産地消について、地元とどのように解決しているのか。

検診率向上のための、具体的な取組みは何か。紙を配布するだけでなく民生委員を活用するなどの工夫が必要ではないか。また、保育園統合について、継続審議は詰め甘さがあるのではないか。

【総務部長の回答】

不要な財産は売り払いをしている。どういうところが足りないのか具体的にお聞かせ願いたい。

【委員の意見】

ホームページだけでなく、周知方法の工夫が足りない。もうすこし地域審議会を活用するなどの工夫が必要ではないか。

【総務部長の回答】

全世帯に配布できればベストだが、コストを考えた結果である。費用対効果の面もある。地域審議会でも説明した。この方法が万全だとは思っていない。具体的な提案があれば教えていただきたい。

【委員の意見】

嘱託員会議等を活用できるのではないか。一気に周知する事は不可能、少しずつ地道に地域に知らせれば良い。

【委員の意見】

セーフティーネットではないが、すべて佐渡市の市民に情報が伝わる方法を整えればよい。取組みに応じた知らせ方がある。

【総務部長の回答】

いずれにしても万全でないのは事実である。できるだけ工夫して市民にお知らせしていきたい。

【教育次長の回答】

地産地消、米飯給食の拡大、導入を進めている。他の食材については、生産者と意見交換、関係団体、産業観光部との連携を図りたい。冷凍食品、安全安心の観点から徹底して卸業者、食材導入について協議していきたい。一定程度は必要なことは理解を得たい。

【福祉保健部長の回答】

合併前は検診申込書を手渡しで行っていたが、現在は郵送である。手渡しでの申込みの方が良かったとの意見もある。健幸さど21を作ったが市民参画の手法で、土壌づくりの工夫をしたい。

保育園統合は、すべて同じパターンを想定していたが、地区によって違うので、工夫が必要で甘さを感じた。

【委員の質問】

自己検証シート作成の課程で推進本部、事務改善委員会等との連携はしたか。

職員定数は、削減のしわ寄せがないか。将来の職員構成を含めた新採用との関係をどう考えているか。

世界遺産説明会で地元説明会予定回数より減っているのはなぜか。広い盛り上がりが必要かと思うが。

検診について、周知回数が予定より減っているが何か工夫があって周知回数が減ったのか。

【総務部長の回答】

記載に関しては推進本部等との調整はなく、連携はしていない。

定数削減のやり方は、職員の減少はサービス面ではどこかにしわ寄せがある。ソフト面への影響が無いよう一定の枠内に抑える必要はあると考えている。

新採用抑制の支障は今のところは見えていない。年齢構成で見ると50歳以上は全体からすると多いので、そこらの年齢を割いていきたいと考えている。

人材バンク制度を19年度から実施している。福祉施設等の紹介がある。

【委員の質問】

実際に肩はたたいていないのか。

【総務部長の回答】

それはない。

【教育次長の回答】

回数が少なかったことは反省している。情報提供の検討と平行していた。

地域、市民へのかかわりは、それぞれの地区に入り、説明していきたい。市民からの協力も得たい。

【福祉保健部の回答】

経費削減のために集約できるものは集約して郵送した結果だと思う。回数が少なく効果が高い方法を検討したい。

【委員の質問】

時間外勤務の項目は意識改革の最たるものである。振替勤務はどのようなものか。

【総務部長の回答】

出勤時間をずらす勤務方法である。

【委員の質問】

保育料未納はどんな方が多いのか。

【福祉保健部長の回答】

景気状況が悪いためのものもあるが、都市部は意識の問題が多いようである。

【委員の質問】

世界遺産シンポジウムは良いが、島民にも知ってもらおうツアーを組んでもらいたい。島民に現場を見せれば、意識が変わり盛り上がってくるのではないか。

【教育次長の回答】

すぐ指示したい。

【会長】

20年度以降に反映させていただきたい。ご苦労様でした。

【建設部・市民環境部・選管のプレゼンテーション】

【建設部長の説明】

(別紙自己検証シートについて説明)

【市民環境部長の説明】

(別紙自己検証シートについて説明)

【選挙管理委員会事務局長の説明】

(別紙自己検証シートについて説明)

【委員の質問】

3部局長に伺う。マニフェストの進捗状況の把握について、どのような検証をしているか。

【市民環境部長の回答】

目標設定を年2回に分けてしようと試みたが、目標設定と分析があまりできていなかった。よって、パソコン等を活用し、情報共有による事務の簡素化が図れるように新年度から修正したい。

【選管事務局長の回答】

本年度のマニフェスト内容は100%終了した。この結果を踏まえて4月の市長・市議選挙に活かしたい。

【建設部長の回答】

建設部の項目は、当然の業務であり、当然のこととして、時期を問わずやる必要があるもの。マニフェストに掲げることで職員への徹底、効果が大きかった。

【委員の質問】

進捗管理の確認はどのような体制をとってきたか。指示をしたか。

【建設部長の回答】

住宅使用料については、督促状や催告書の発行件数により、徴収率などの状況を確認した。

【市民環境部長の回答】

四半期毎の把握は基本であり必要と考えているが現実はできていない。廃棄物関係には行政以外に民間処理業者へ委託しているものもあるので、情報を常にととなると難しい面もある。一番の問題点はゴミ処理を行うエリア単位で手法が異なるのでデータにもバラツキがある状況である。新年度からは3ヶ月に1回は分析を行いたい。

【委員の質問】

建設部長に伺いたい。すべてCだが、Cならもっと目標数値をあげることができるのではないか。収納関係は今後クリアできる数値なのか。

【建設部長の回答】

目標設定の甘さがあった。まだ努力目標があると思うので反省も含め厳しくした。

収納は夜間訪問を積極的に実施し、目標達成に向けて努力したい。

【委員の質問】

部局長として、自分自身努力したことはあるか。

【建設部長の回答】

頑張ってきたことは、下水道接続率である。部下にも強く指導してきた。整備段階であるため、分母が変化するので難しいところもある。

【委員の意見】

先ほどの補足。

取組課程が良くわからない場合がある。自己検証シートの所見から努力の内容がわからないという意味である。

【委員の質問】

市営住宅使用料の未納額は累計か。また、未納者への徴収方法はどのようにしているのか。

【建設部長の回答】

未納額は累計である。督促等でも納付していただけない者は夜間訪問をしている。

【市民環境部長の回答】

反省点は目標設定の仕方がうまくなかったと感じている。頑張った点では、職員に責任を持たせる意味で、市長記者会見でマニフェストに関するものを定期的に出させたことで取組目線が変わったことである。マスコミをうまく利用できたことである。

【選管事務局長の回答】

開票事務は合併前の状況を調査しても、もともと県内で最下位であった。これでは、同じやり方をしても変わらないと思い、自ら先進地視察を行い新たな手法を勉強したことである。

【委員の質問】

投票率はどう考えているか。

【選管事務局長の回答】

重要だと考えている。懸垂幕、ティッシュ等啓発はしている。今後は支所任せにしていた啓蒙活動にも力を入れて投票率アップを図りたい。

【委員の質問】

特定の投票所で投票率が低いところを把握しているか。

【選管事務局長の回答】

投票所を見直したところは、全てではないが率は若干下がっていた。

【委員の意見】

なぜ投票率が低いところがあるのか、分析をしっかり検証してほしい。

【選管事務局長の回答】

全体の投票率はあがったが、努力したい。

【委員の質問】

下水道加入率と水道使用料の大口滞納者はいるのか、時効年数はあるのか。

【建設部長の回答】

法律的には3年以内に接続する必要がある。公共マスを設置したら受益者分担金が発生するが現在は5期に分割できる。下水道使用料は水道料と一緒に徴収している。水洗化率は51.5%。接続率は約48%である。

水道使用料の大口滞納者は旅館関係、法人で倒産したところは不能欠損で処理した。

【委員の質問】

放置車両、ごみ減量化などを行っているが市民周知はどう考えているか。

【市民環境部長の回答】

分別方法が島内であっても地区によって異なっている。まずは一本化をしたい。

分別の仕方、料金など全島で説明会を開催し、25年にはゴミの量を1/3にしたい。

生ゴミ、紙、布類をリサイクルできるかが課題である。その結果、CO₂削減にも貢献される。

【委員の質問】

紙は古紙回収があるが、布類もできないか。市民周知の下準備をしっかりと行ってもらいたい。

【市民環境部長の回答】

新年度の6月議会に説明し、地区説明を実施し、全島での取組は1年後の4月位と考えている。

【産業観光部、議会事務局・消防本部のプレゼンテーション】

【産業観光部長の説明】

（別紙自己検証シートについて説明）

【議会事務局長の説明】

（別紙自己検証シートについて説明）

【消防本部次長の説明】

（別紙自己検証シートについて説明）

【委員の質問】

部局長として、自分自身努力したことはあるか。

【産業観光部長の回答】

全てに関わることは困難だが、工程管理、必要なアドバイス、事務調整できない部分を調整することが役割だと考える。よって、特に説明会に行くなどはしない。

【議会事務局長の回答】

ワンフロア体制の中で、全体のコミュニケーションを大切にしている。また定期的に係長会議を開催し、そこで方針等を決定し、それを部下に反映することを日々行っている。個人としては特にしていない。

【消防本部次長の回答】

応急手当講習に積極的に参加、AED設置時に救命士とともにお願いや家庭訪問をしている。

【委員の質問】

産業観光部、取組過程の中で精力的と相応な対応とあるが中身は何か。精力的に取り組んだにもかかわらず評価がなぜCなのか。

消防本部、火事が多かったが到達時間はどうだったか。また出火原因は何かはわからない場合があるが公表しているのか。

議会事務局、議会の様子がテレビ中継されているが、同じ質問を同じように答えているが、その辺りの対策はあるのか。

【産業観光部長の回答】

事業を行う中で特に不備がなかった。過剰人員もなかったので相応な対応とした。精力的に取り組んだ部分については、職務怠慢もなかったと考えるということからの判断である。

【議会事務局長の回答】

テレビ中継は休憩中だけカットしている。CNSからの申請を議長が許可する形でテレビ中継している。

会派で調整してほしいとは議運等で伝えているが、徹底はされていない状況である。

【消防本部次長の回答】

消防15分、救急30分圏は前浜と海府分遣所ができたことから9割はクリアしている。現場までの到着時間は年間平均6分半から7分である。

正直、原因不明処理が多い。こうだと思うが断定できないものが多い状況である。基本的には警察が原因を発表することとなっている。

【委員の意見】

火災防火の点から分かる部分は公表した方が良いと感じる。

【消防本部次長の回答】

火災原因は警察から発表する仕組みとなっている。

【委員の質問】

新たな財源の創出に大学訪問数がある。訪問件数が69件となっているが、反応はどうか。

【産業観光部長の回答】

今、69校のリストはない。主に補助制度のPR等による訪問である。反応の詳細は掴んでいないが誘致数から効果があったと考えている。

【委員の質問】

訪問した学校の内、本年度何校の大学が佐渡へ来たか。

【産業観光部長の回答】

訪問した学校と来ていただいた学校の付け合わせが必要である。合宿で来ていただいた学校が訪問したことで合宿に来たのか、インターネットなどを見て来ていただいたのか付け合わせが必要である。いずれにしても手法は違うが効果はあったと考えている。

【委員の意見】

後日、合宿誘致したことで来た大学を教えてほしい。

【委員の質問】

消火栓の使用時におけるタイムラグがあったと聞いた。箇所の把握はどのような体制をとっているのか。

【消防本部次長の回答】

地理と水利の把握は前提である。指摘もあると思うが、半年間は非番時に水利確認を行いながら帰るように指示している。

【委員の質問】

合宿誘致の関連であるが、商工会議所と連携をしながら誘客強化しているところがあるようだが、民間企業への協力体制は行政で可能か。

水産の関係で氷の利活用があるが、氷を利用するには魚が必要である。佐渡市は農業には力を入れているが、水産には力入れ方が少ない気がする。漁業区域の見直し等に力を入れられないものか。

【産業観光部長の回答】

佐渡市の合宿誘致事業は高校、大学、専門学校を対象としており、企業は対象としてい

ない。予算の関係もあるので、今のところ手が回っていない状況である。観光協会を通じた斡旋は可能であるが、金銭面での助成はできていないということである。

農業に力を入れて、水産業を軽視していることはないが、調整については相手の領域のこともあるので、佐渡市で調整するというよりも、県での調整となる。

【委員の質問】

観光客がサザエやアワビを採った時に漁民とトラブルはなかったのか。

観光ルネッサンスで、港のまちパンフレットが完成している。中身を見ると新しいメニューは良いが、パンフレットを作成すること自体が良いのか。疲弊している中でそれだけの価値があるのか疑問である。

【産業観光部長の回答】

本年度から、夏前に行政が県と協力して対応マニュアルを策定しトラブル防止に努めた。今年度トラブルは聞いていない。

観光ルネッサンス事業であるが、外国人は特に伝統的な古いまちなみに興味があるということで島内4地区、両津、真野、小木、相川を対象に作成した。

【委員の質問】

議会事務局ですが、多く市民に興味をもってもらうためにはホームページ以外の工夫が必要ではないか。

【議会事務局長の回答】

何かヒントがあれば教えて欲しい。

【委員の意見】

例えば図書館でビデオの貸し出しを行っているが、その旨をCNSテレビ等のテロップで流すなどがあっても良いのではないか。

【委員の意見】

一番良いのは実際に議場へ足を運んでもらうことであるが、行けない事もある。それをカバーするのはCNSテレビの利用が一番効果的と考える。

【議会事務局長の回答】

議会事務局で撮影しているわけではなく情報政策課で行っている。放送枠の関係もある。特に臨時会は途中で中断することが多く、時間が読めないため生放送できない状況である。よって、録画対応としている。

【委員の質問】

議会がいつから始まるか分からない。広報誌等で早いお知らせができないものか。

【議会事務局長の回答】

今後は他市のように定例会が終わった段階で次の定例会日程を発表したいと考えている。

【委員の意見】

自己検証シートに焼死者の欄があるが自己評価A～Eで評価するのはどうかと思う。公表する際は、配慮したらどうか。

【消防本部次長の回答】

表現を検討する。

【委員の意見】

訪問活動は素晴らしいことである。頑張ってもらいたい。

【委員の意見】

警報装置、業者によってバラツキがある。PRをしっかりとしてほしい。

【企画財政部・農業委員会事務局長のプレゼンテーション】

【会長】

企画財政部長にお伺いしたい。今回の事前資料に企画財政部の自己検証シートがなかった。事前検証をして、本日そのつきあわせをしながら評価をする中で、その準備ができなかったことは誠に遺憾である。何に原因があって資料提出ができなかったのか、また今後はどのような対応をするのか釈明をした後に企画財政部からプレゼンテーション説明を願いたい。

【企画財政部長の説明】

お詫びしたい。男女共同参画と定住の関係職員が体調を崩してしまったこと、担当者の認識不足もあり遅れてしまった。大変申し訳なかった。

【企画財政部長の説明】

(別紙自己検証シートについて説明)

【農業委員会事務局長の説明】

(別紙自己検証シートについて説明)

【委員の質問】

部局長として、自分自身努力したことはあるか。

企画財政部、ケーブルテレビ加入率を上げるために、市民が何を見たいのか番組内容のニーズ把握が必要と思う。また、佐渡テレビとの番組編成の調整が必要かと思うが、把握されていることはあるか。

農業委員会、今後、加入面積の増加が予測できるが、認定農業者が原点になると思う。農業委員は一步はなれている感じを受ける。農家組合の活用をどう考えているか。

【企画財政部長の回答】

自ら行っていない。但し、会議終了後に会議の進め方、注意、指導は行なった。

ケーブルテレビは、番組を見て駄目な点を指摘した。テレビは行政と民間が作成する内容を切り分ける必要がある。佐渡テレビと行政の役割分担を明確にするよう指示をした。

市報等、読んで理解できないことは映像の中で解説し、言葉で伝達する研究、工夫が必要である。番組審議会では地域番組の依頼もある。民放とのバランス。今後の審議会でも提案していく予定である。

【農業委員会事務局長の回答】

自ら行っていない。人員的に現場での作業ができない。よって、委員に説明する内部資料作りを徹底している。

品目横断の関係は、認定農業者になることが加入できる条件である。19年度については、個人4ha以上、法人20haが一つの面積要件がある。

加入促進については、農業振興課でも実施しているが、連携して積極的に進めた。

認定農業者については、現在723人の認定農業者になっている。来年度は面積要件が

緩和できるかが重点になる予定である。

【委員の質問】

認定は農業委員か。

【農業委員会事務局長の回答】

農業振興課に提出された書類を農業委員会でも承認することとなる。

【委員の質問】

実質公債費比率、今後の見通しとして18%を超えないか。

【企画財政部長の回答】

絶対に18%にしてはならない。下げる事は難しいので、今以上あげないようにしたい。改革を進めるために施設統廃合を行うと補助金返還等も発生するので、それらを加味しながら進めたい。

【委員の質問】

実質公債費比率は確定していないが、確定値は変わらないか。

他部局は自己検証シートを事前配布されたが、体調だけではない事情も資料提出の遅れにあったのではないのか。

【企画財政部長の回答】

比率はさほど変わらない。

遅れは佐渡汽船の問題と飛行機の問題があった。その資料作り、後始末等に追われた。

【委員の質問】

18%はないといったが、上昇は近年の数値からも見える。本当に大丈夫か。

【企画財政部長の回答】

特例債の返済時期。小木の湯の繰上げ償還による影響が出てくる。

2) その他

【事務局の説明】

前回の委員会で、今年度の行政改革の取組について説明をしているが、現在の状況について経過報告をする。

組織

職員数減に伴い支所を縮小せざるを得ないので各部、各課と詰めの作業をしている。市民サービス低下は許されないので、内部管理業務の見直しをお願いしている。特に支所の保健師は訪問活動ができない状況のため、拠点支所に集約し訪問活動を重視させたいと考えている。条例改正はしないが相当に大きな組織改革をする予定である。

公共施設

公共施設数は1178で市民に公開した。地域審議会等で内容説明をしている。マル秘ではないので、各課が色々な場で使ってほしいと説明している。既に赤泊の地域審議会にも伺っている。行政改革課は総論部分でしか言えないので、総論部分での話をしている。既に市民、国県からもチェックが入っている。それを見ながら市民と一緒に1178施設を整理していきたいと考えている。

行政評価

事務事業評価が終わり、施策評価のヘルプデスクを実施中である。20年度の夏くらい

までには形にしたい。現在は18年度決算ベースで練習中であるが、今度は19年度決算をベースに事後評価をし、21年度の予算に向けて活用できるように進めている。

補助金・負担金

各課とヒアリングをしている。20年6月位に再度ヒアリングをし目線合せが必要と考えている。

大きな流れについては以上である。詳細は担当から説明させます。

【事務局の説明】

公共施設については指針等を示す中で、現在2件の意見を赤泊地域審議会で頂いている。この意見を現課へ報告し、年2回くらいのペースで見直し作業を進める予定である。

補助金・負担金については、17年度に当委員会からの答申を受けたもので整理している。3月中に答申内容の徹底を図っていきたいと考えている。今後は補助金・負担金についても事務事業評価の中で確認できるような方法を検討したいと考えている。

【事務局の説明】

総合計画に基づいた施策事業について、施策評価を行っている。施策評価の評価者は課長、課長補佐である。事務事業評価は係長が中心に行っている。施策評価は現在ヘルプデスクを実施中である。佐渡市の総合計画には、目指すところの目標数値がない状況であるので目標とする指標設定を話し合いながら行っている。今年度は指標の設定に力点。来年度は予算編成との連携に力点をおく予定である。

【委員の質問】

施設の見直しで国県からチェックが入っているようだが、その内容は。

【事務局の回答】

中山間地域整備事業で整備した集落センターや公園を地域へ譲渡したいと考えていた。しかし、土地改良法で整備していることから、一部の団体は認めるが地域への譲渡は現行法ではできない。よって、該当施設は指定管理の方向で県と調整している。

【委員の質問】

市民の意見内容は。

【事務局の回答】

今までどおりに維持してほしいとの意見である。民間移譲の表現が地域以外へ移譲すると思われており、説明不足であったと反省している。

【委員の意見】

支所の人員削減は理解できる。ある程度精通した職員を配置してもらいたい。

【事務局の回答】

言われることはわかる。これまでの考え方に文書をみて判断できる訓練が足りなかった。内部研修等で訓練をしていきたい。行政改革を進める中で、旧市町村（出身地）を否定するところから考えてほしいと伝えている。

【委員の質問】

事前評価が大切である。評価をする人は誰になるのか。

【事務局の回答】

事前評価は職員が自己評価をする。佐渡市の場合、事務事業評価は係長、課長補佐単位で実施する。施策評価は課長、部長単位で実施。それを繰り返すことによる課題もあるの

で、外部評価も必要と考える。

【委員の質問】

自治体職員は、地元をどうしたいか考える必要があるということですね。

【事務局の回答】

最終的には、施策評価がマニフェストに変わるものと考えている。

【委員の意見】

今、委員が実施しているものは内部評価で可能である。来期への任命は内容も含めて十分考慮してほしい。

【委員の質問】

自己評価の中で、遠慮しているものもあれば、そうでないものもある。評価については表現に不満がある。

職員数の多さは事実である。勤奨の方法も考える必要はあるか。

また、市議が28名になるのに、副市長は本当に2人いるのか。

【事務局の回答】

勤奨、副市長2人制は色々と検証している。現在の制度が常に良いわけではないと考えている。

今の事務事業の見直し、可能なかぎり現課と話しあいをしている。

【委員の意見】

副市長の問題は、部長制をしいたがゆえの話。

【事務局の回答】

査定の影響もある。

【委員の意見】

評価するだけなら意味がない。将来の発展につながるようなものが必要である。

【事務局の回答】

議会もマニフェストに対して意見がでるようになった。施策評価も同じ。

4 今後の日程・連絡事項

【事務局の説明】

1点目、今回は本年度最後と言うことで、中間答申のまとめを行いたいと考えている。よって、次回委員会をいつ開催するか日にちを決めていただきたい。会議時間は1時間半から2時間程度で考えている。

【委員の意見】

議会の関係もあるので、会長及び職務代理に一任をお願いしたい。

【会長】

中間答申（案）をいつごろに作って、どういうふうに委員へ送付して、どういうふうに訂正するのか、いろんな過程を経ないといけない。そのあたりの事務局案はあるのか。

【事務局の回答】

2月21日に提出いただき、その後、事務局で調整させていただき、答申案を3月上旬には、郵送できると考えている。

【会長】

最終の委員会で即、訂正するのか。

【事務局の回答】

そう考えている。市長への答申は市長日程が合えば、その日に答申したいが、都合がつかなければ後日、時間調整をお願いし答申したいと考えている。

【事務局の説明】

2点目、今日、お集まりの方々には長年にわたって、行革推進委員をお願いしてきたが、来年度は現在の半数である5名を改選させていただくことにした。また改選に併せて新たな公募委員から任期を3年に規則を改正させていただき3年に一度、半数が改選される流れとさせていただいた。なお、新たな公募委員の募集については、明日2月15日より広報誌2月号・CNSテレビ・ホームページを活用して募集の周知をする予定である。募集締切りは3月10日(月)となっている。

5 閉会

職務代理あいさつ